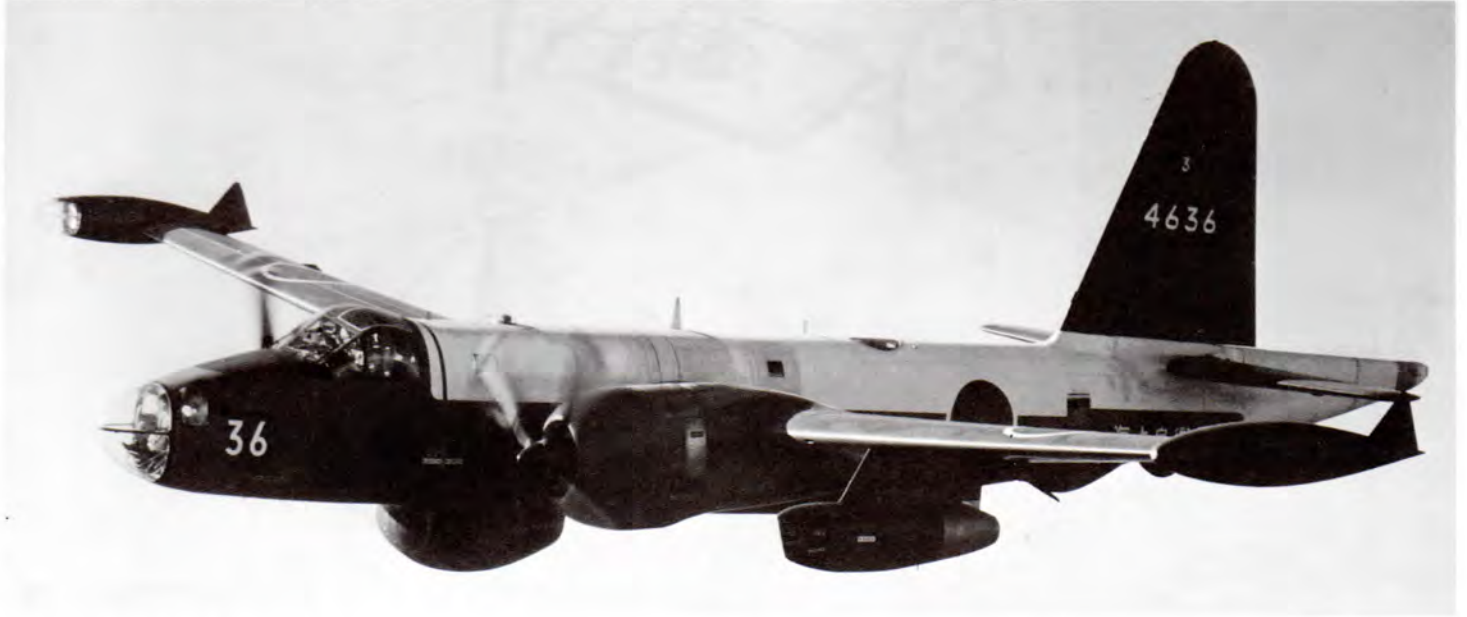


# P-2H (P2V-7) NEPTUNE

**Hasegawa**  
Hobby kits

## K6 1:72 P-2H (P2V-7) ネプチューン

LOCKHEED MARTIN, P-2 Neptune, associated emblems and logos, and body designs of vehicles are either registered trademarks or trademarks of Lockheed Martin Corporation in the USA and/ or other jurisdictions, used under license by Hasegawa Corporation.



### 〈P-2H (P2V-7) について〉

現在ひろく各国に普及しているこの遠距離用対潜機の母体は、最初1944年に設計され、初飛行に成功した1945年5月7日以来、現在に至るまで対潜哨戒機として第一線にあり、その間たびたびの大改良によって、性能向上と装備品の改善が行なわれ各国で活躍、1954年に出現したP-2H (P2V-7) が最終型となりました。原型であったXP2V-1 哨戒爆撃機は、46年距離直線飛行の世界記録を樹立し、当時の傑作機の1つでした。その後潜水艦の発達と対潜作戦の進歩につれて、本機はもっぱら対潜哨戒機として改良発展をつづけました。尾端に長く出た磁気探知機 (MAD)、胴体下の巨大なレドーム、ECM、翼端の7千万燭光のサーチライト、ソナーブイ、爆弾倉に収容する魚雷、爆弾、ロケット弾の攻撃兵器など、一応の対潜兵装はすべて整い、12時間から18時間に及ぶ長時間哨戒が可能です。20%という厚翼の良好な空力効率、それに水平安定板の一部を可動にしたバリカム装置により、広い速度範囲と重心移動範囲で良好な操縦性を保っています。5型以降は、J34ジェット・エンジン (燃料は主エンジンと共通) を2基装備して離陸性能と戦闘時の速度向上を図り、さらに安全性も増大した。任務の特質上、長大な航続力とあらゆる天候下の行動能力を



〈P-2J〉

助エンジンも国産のJ3-8に換えられ、主脚の取り付け法が変わって、単車輪から直径の小さいダブル車輪となりました。垂直尾翼の形がかわって方向舵面積が増し、レドームが著しくコンパクトになりました。しかし、こうした外見上の相異よりもずっと重要なのは、内部の対潜装備の変更で、P-2Jには最新の装備がしてあります。エンジン出力は、P2Vよりもかなり小さくなりましたが、改設計により機体重量は4.5トンも軽くなり、性能面ではかなり向上しています。次期のジェット対潜機PX-Lの実用化までの間、P2V-7にかわって海上自衛隊対潜機の主力をつとめます。

### 〈P-2H (P2V-7) データー〉

エンジン：ライトR-3350-32WA 3,750hp×2基+ウェスチングハウスJ34WE 1,542kg×2基 全幅：30.89m 全長：27.94m 全高：8.94m 翼面積：92.9m<sup>2</sup> 自重：30,618kg 海面上昇率：770m/min 最大速度：マッハ0.47 実用上昇限度：7,620m 航続距離：7,400km 武装：魚雷×4または150kg爆弾×16、127mmロケット弾×8

### 〈ターボプロップ・エンジン〉

有効出力の約10%を噴出ガス中に残しておき、残り90%によってプロペラを駆動する形式のガスタービン・エンジンです。噴出ガス中の10%の有効出力は、推力の形で利用される。このエンジンは、低速時の推進効率が大きいので離陸性能は良好ですが、プロペラによる推進なので、最高飛行速度を大きくとることができない。軽飛行機用の原動機分野に進出しつつあり、この傾向は、エンジンの価格など経済的な問題が解決されるにつれてますます強まるでしょう。

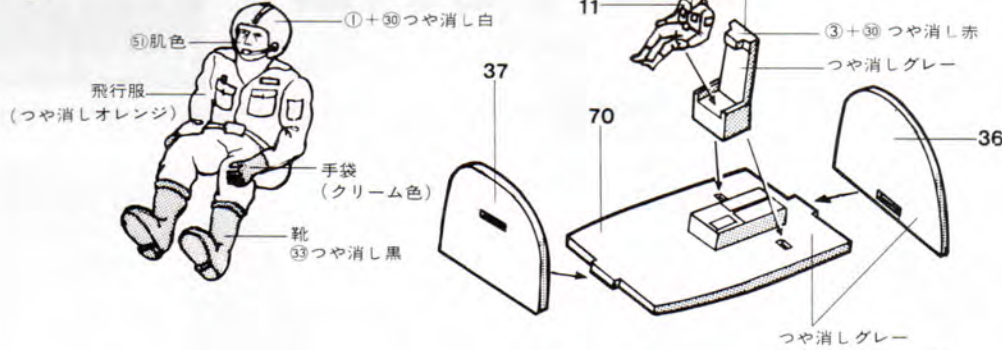
写真提供 航空情報



〈P-2J〉

要求され、そのための整備と乗員居住性の良さには定評がありますが、ただ高空性能はあまりよくありません。長く海上自衛隊対潜機の主力をつとめてきたP2V-7も、性能はともかくとして、対潜兵装の旧式化が感じられるようになりました。そこで、P2V-7を母体として、それに最新の対潜兵装を装備するのに適した改設計を加えることになりました。こうして国産されたのが川崎P-2Jです。P2V-7よりも、胴体が1.3m延長され、内部スペースが増し、エンジンもターボプロップに変わりました。また4枚羽根が3枚羽根になり、補

# 1 コックピットのくみたて



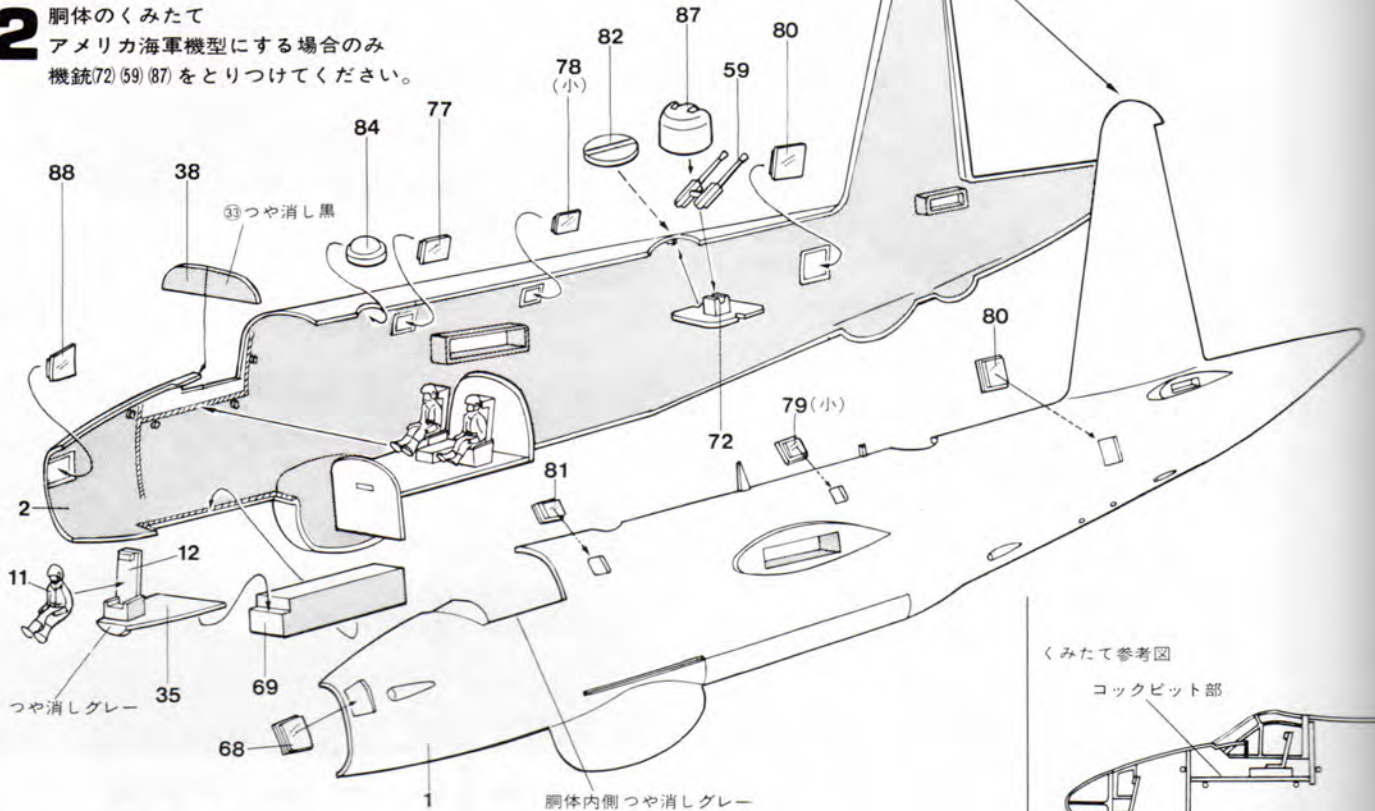
くみたてるまえに

- 説明書を一度全部読んでから、組み立てて製作してください。
- 部品をランナーから切りはずす際はニッパー又はカッターを使ってください。

★注意★  
部品を取り出した空袋は幼児が噛まないように破り捨ててください。

# 2 胴体のくみたて

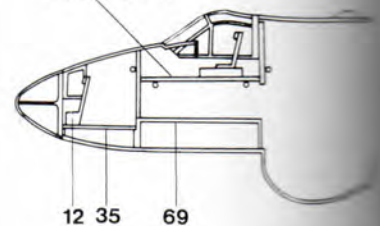
アメリカ海軍機型にする場合のみ  
機銃(72)(59)(87)をとりつけてください。



★胴体前部へオモリ約30gをいれてください。

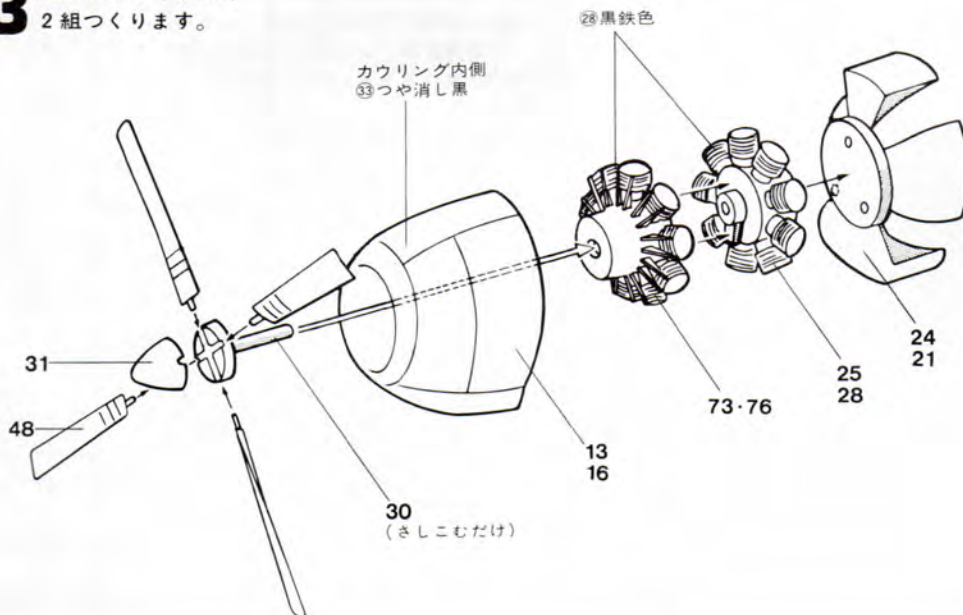
くみたて参考図

コックピット部

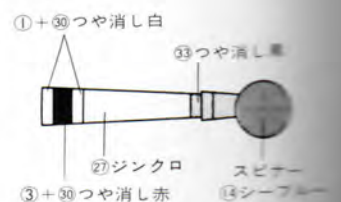


# 3 エンジンのくみたて

2 組つきます。

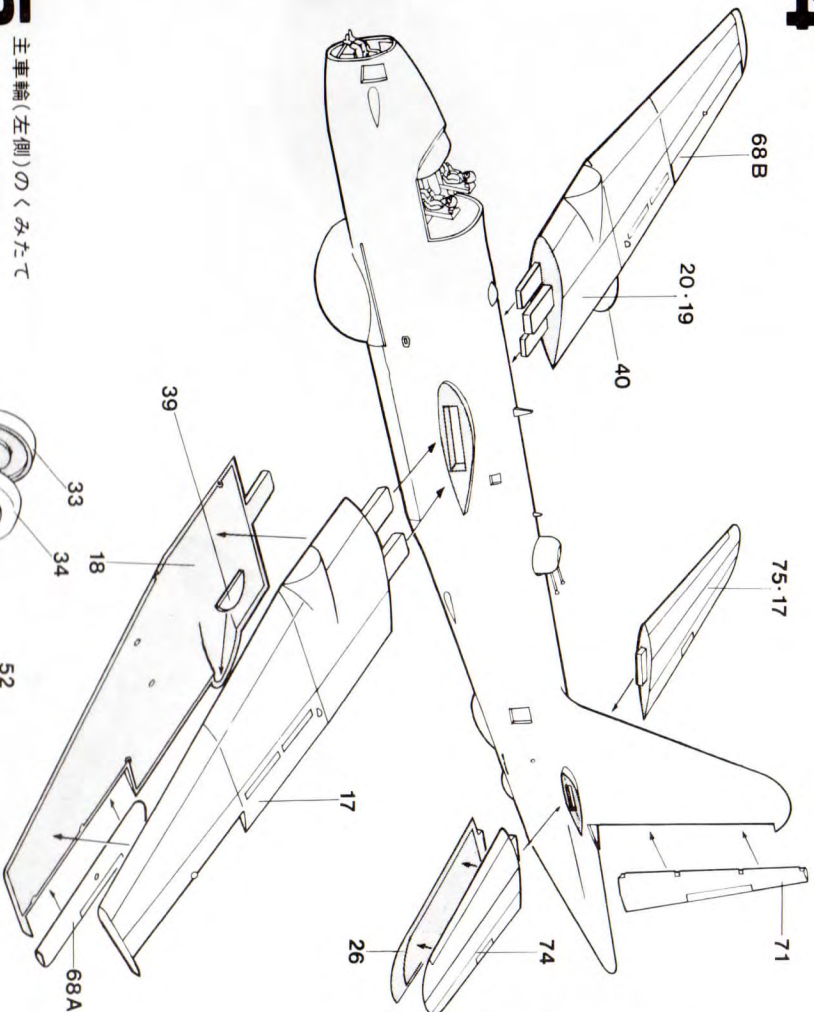


プロペラ塗装参考図



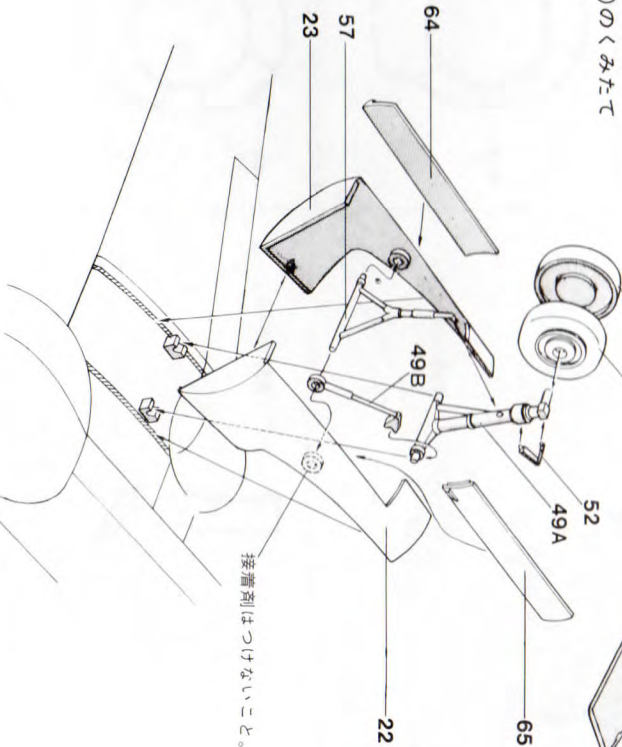
# 4

主翼、尾翼のくみたて



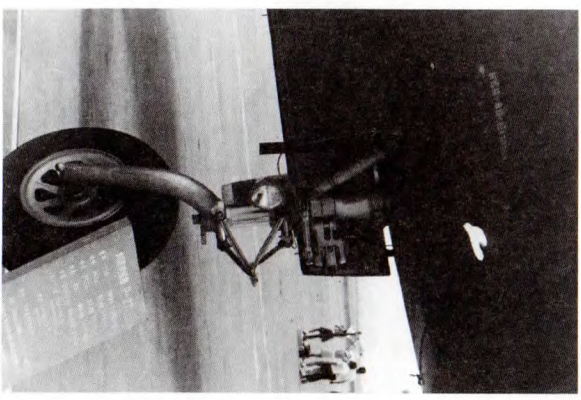
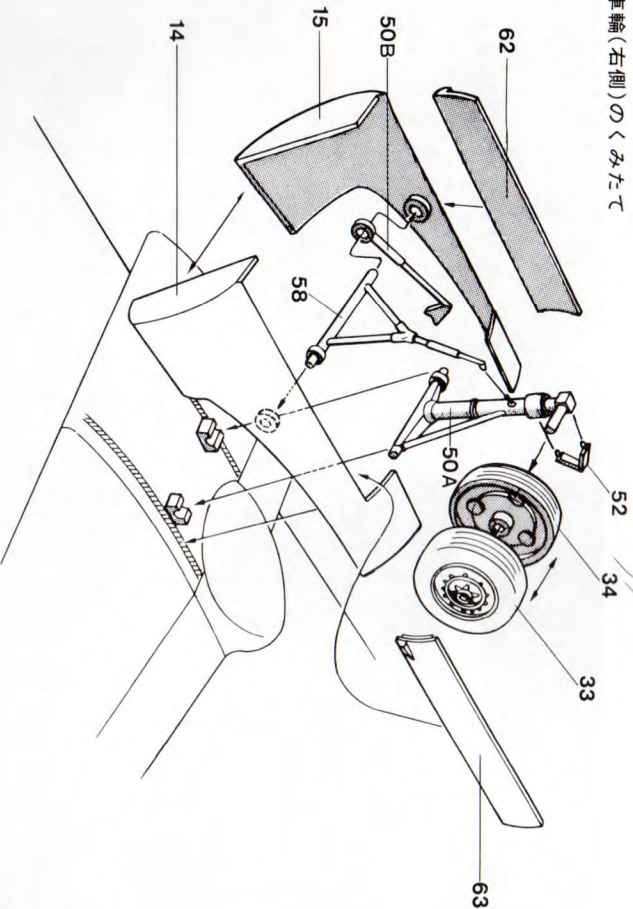
# 5

主車輪(左側)のくみたて



# 6

主車輪(右側)のくみたて



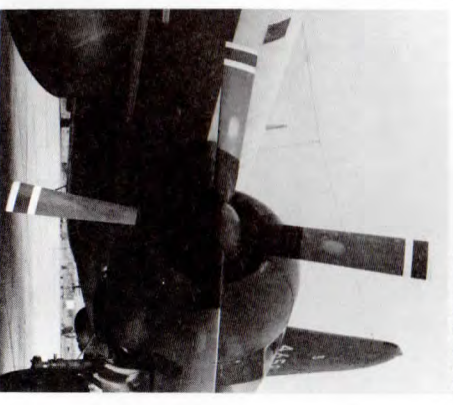
実機写真はP-2J

図-5  
57を22、23の軸受け部におとして（接着剤はつけない）22、23を接着。  
49を主翼下面に接着すると同時に、くみたてたエンジンセル（22、23）を主翼下面に接着します。

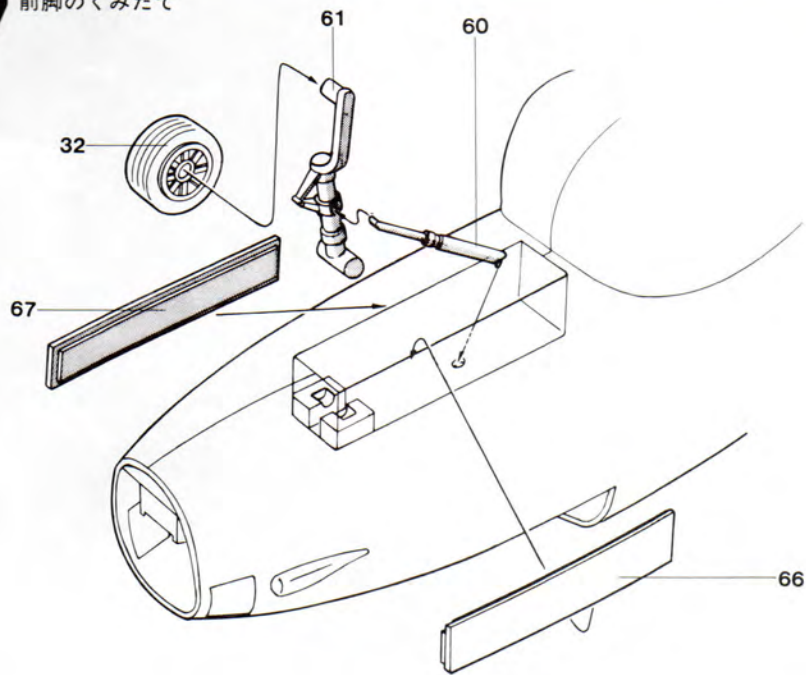
★塗装参考  
タイヤ…③つや消し黒  
ホイール…⑧シルバークロム  
脚柱、トルクリンク…⑧シルバークロム  
脚カバー内側…①+⑩つや消し白

図-6  
58を14、15の軸受け部におとして（接着剤はつけない）14、15を接着。  
50を主翼下面に接着すると同時に、くみたてたエンジンセル（14、15）を主翼下面に接着します。

プロペラ参考写真



# 7 前脚のくみ立て



# 8 排気管、カウルフラップのくみ立て (右側も同じ)

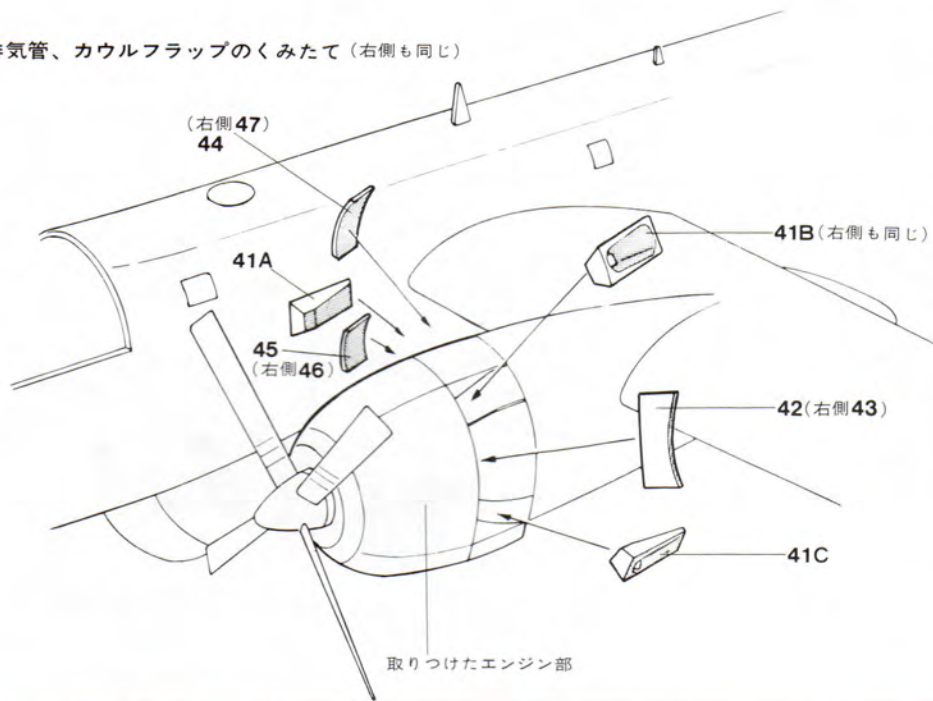


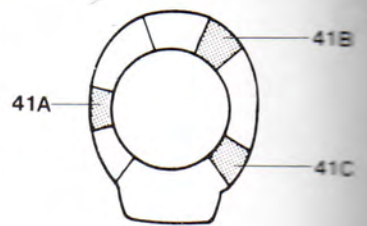
図-7

★塗装参考  
 タイヤ…③つや消し黒  
 脚 柱…⑧シルバー

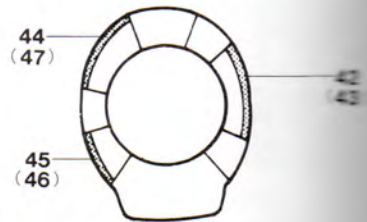


サーチライト参考図

★排気管とりつけ参考図

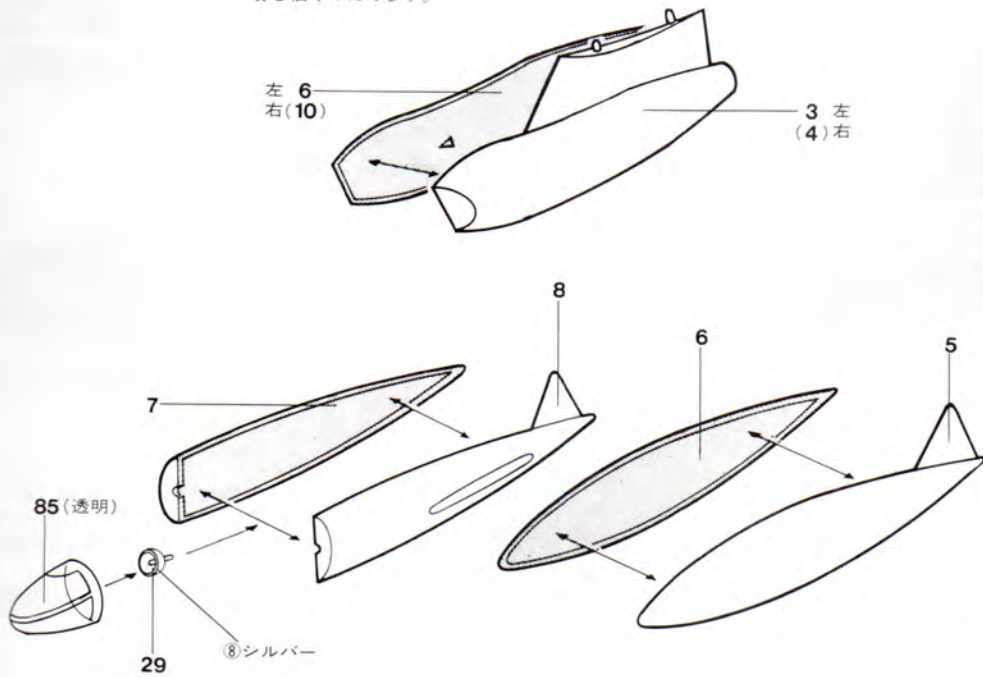


★カウルフラップとりつけ参考図



# 9 エンジン、増加タンクのかみたて

★ 2個くみたてます。



エンジン(P-2J)参考写真

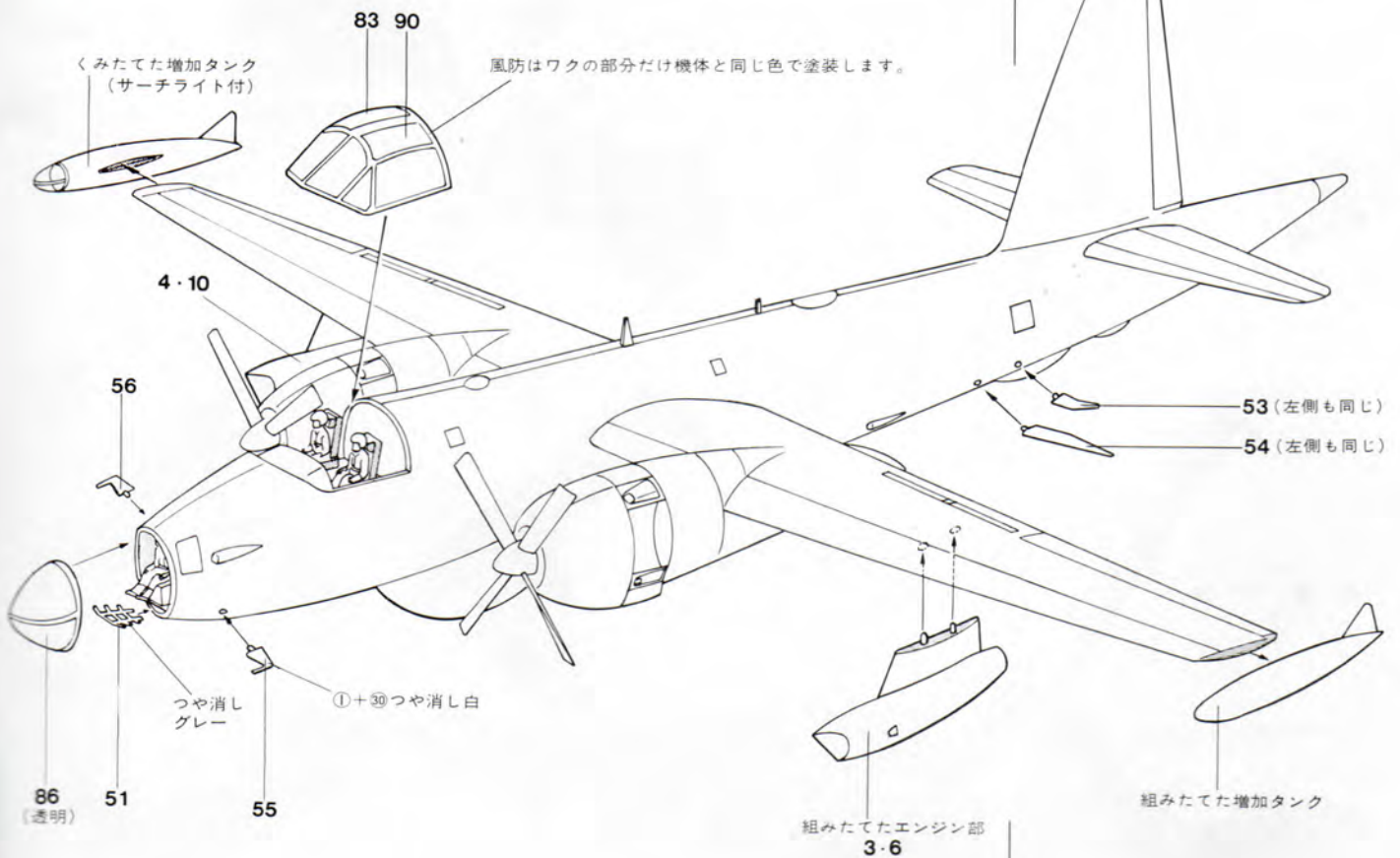


レドーム(P-2J)参考写真



機首(P-2J)参考写真

# 10 部品のとつけ



# Marking & Color Painting Guide

## 《マーキング及び塗装参考図》

### APPLYING DECALS—スライドマークのはり方

1. マークをはる部分のホコリ、油気を水でぬらした布でふきとります。
2. はりたいマークを台紙から切り抜き、まわりの透明な部分を切りとっておきます。
3. ぬるま湯につけ、台紙が平らになってから貼付け作業にかかります。
4. マークを台紙からずらして、所定の位置におき、台紙をずらして抜きとります。
5. マークの上からやわらかい布でおさえ、余分な水分と糊をおしだしモデルの表面に密着させます。
6. かかわないうちは、マークにさわらないで下さい。

- 白(ホワイト)…胴体上面、脚カバー内側など。
- つや消し黒…タイヤ、エンジン部など。
- フラットベース…つや消し用添加剤 原色をつや消しにするときに使用します。
- シルバー(銀)…脚柱、ホイールなど。

- その他の使用カラー…細部にアクセントをつけるには
- 赤(レッド)…つや消しにしてヘッドレスト、プロペラなど。
  - 黒鉄色…エンジン部、機銃など。
  - 肌色…パイロット

塗装用の筆は広い部分をぬる平筆とパイロットなど細かい部分をぬる細筆を用意して、塗装する場所によって使いわけます。塗装後は筆洗い用のシンナーで洗っておきます。



■車輪の塗装  
車輪は左右を接着し接着面のバリや段ちがいを修正してから塗装します。軸穴につまようじなどを通して、車輪のほうを回しながら塗装していきます。乾燥はつまようじを油粘土の受台につかまさせておけばいいでしょう。

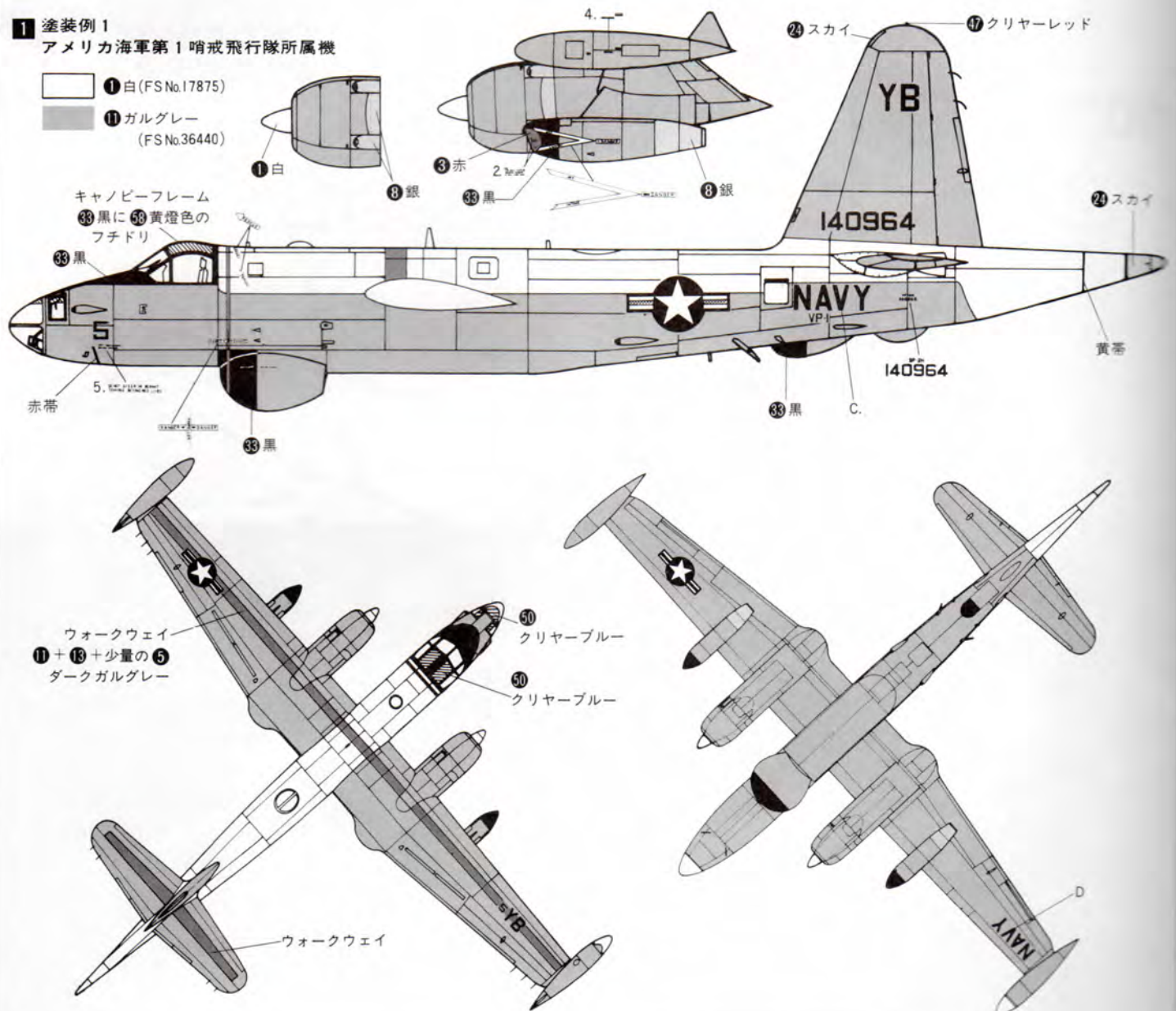
■エンジンの塗装  
エンジンなど細かい部分はランナーがついたままでは塗装が完全にできませんから、ランナーから切りはなしつまようじなどを通して、塗装していきます。全体を黒で塗装してから、すこしかスタール味の銀でこするように塗装します。

■脚柱の塗装  
軸穴のない小さな部品は、クリップ、せんたくバサミ等で一部を固定して塗装します。塗料は厚すぎないように2度塗り程度で仕上げましょう。

### 1 塗装例1

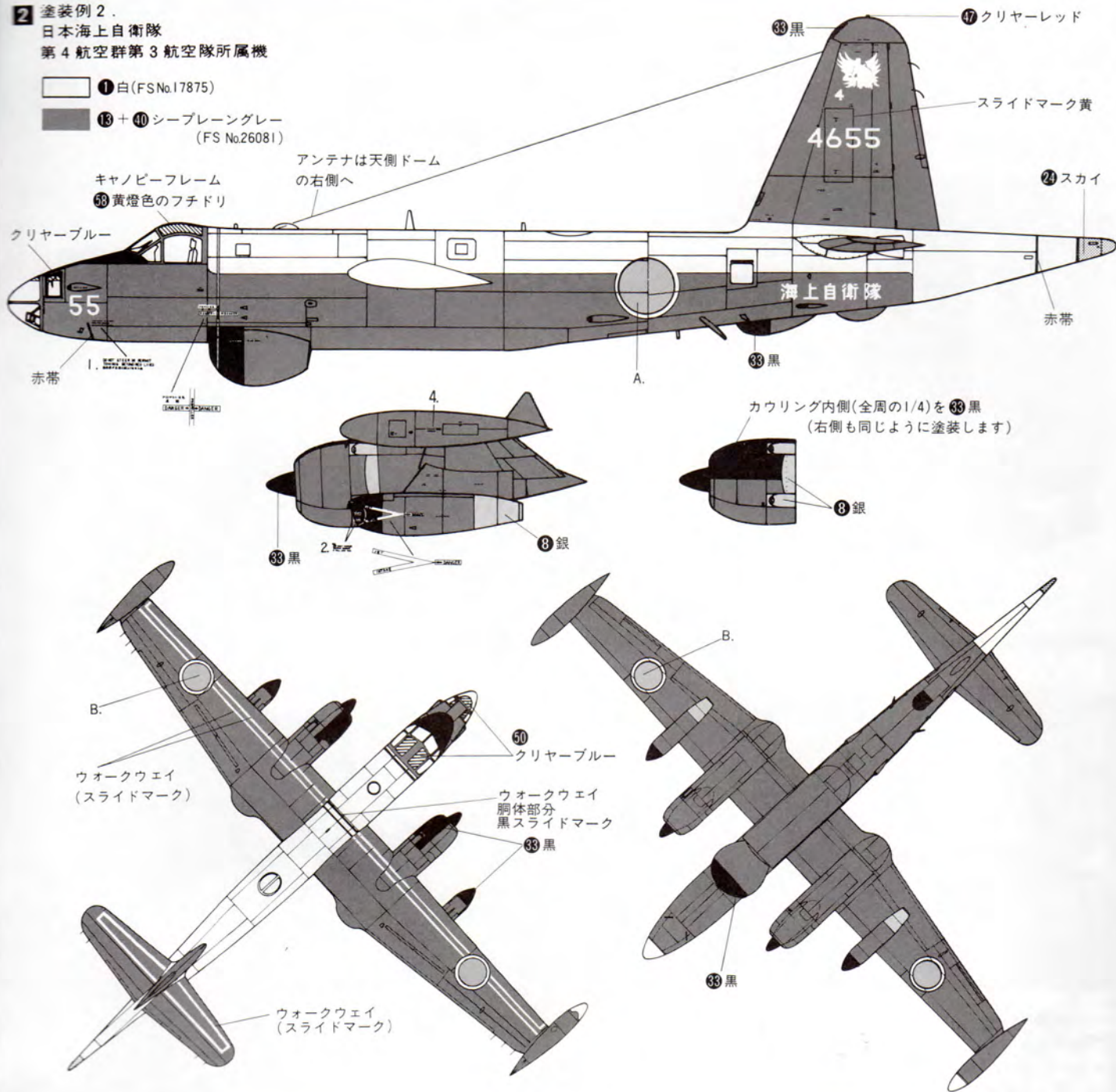
アメリカ海軍第1哨戒飛行隊所属機

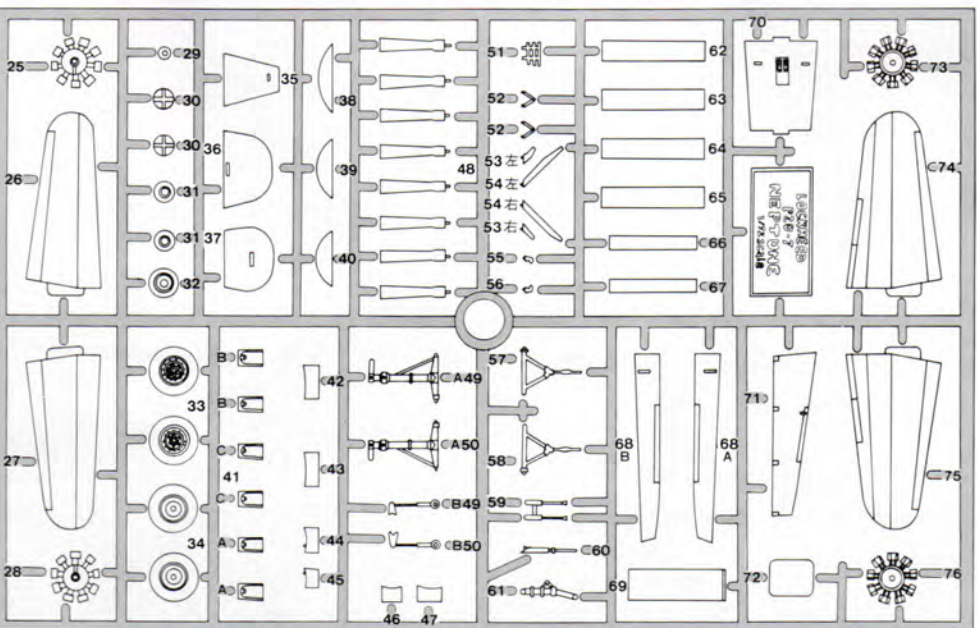
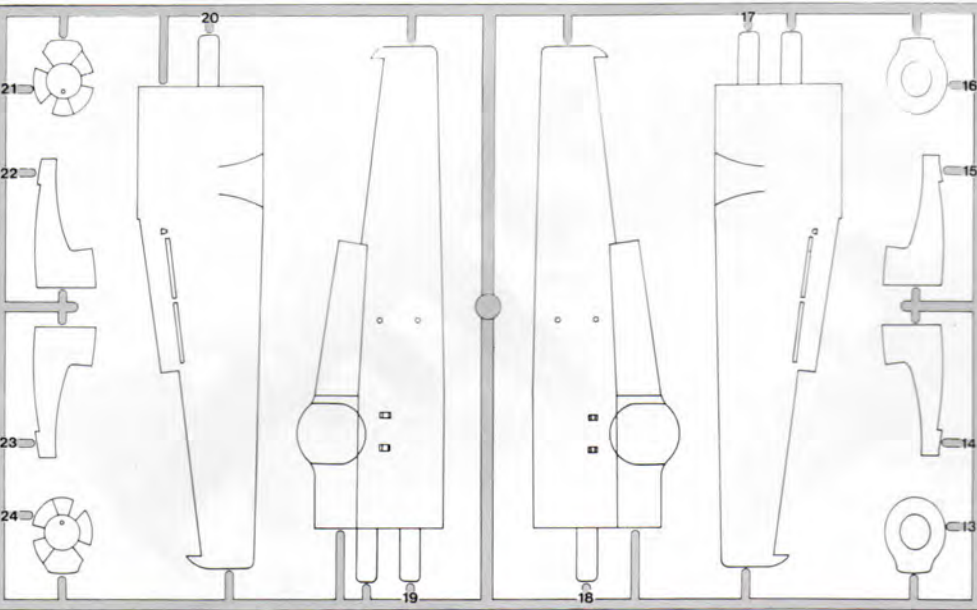
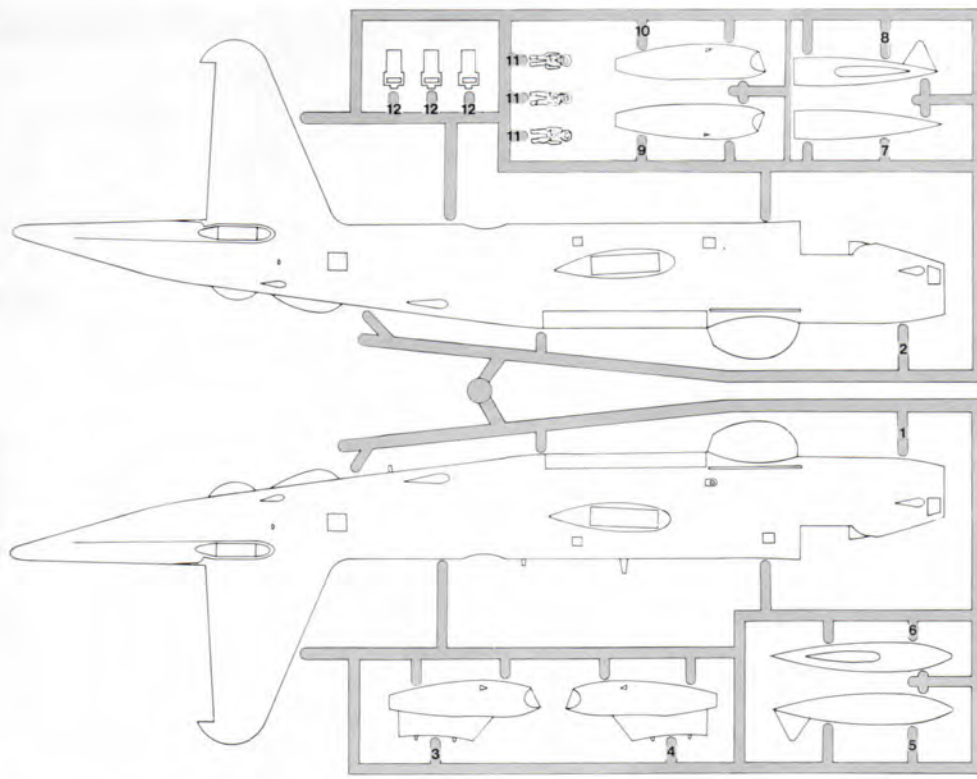
- 白 (FS No.17875)
- ガルグレー (FS No.36440)



**2** 塗装例 2.  
 日本海上自衛隊  
 第4航空群第3航空隊所属機

- ① 白 (FS No.17875)
- ⑬+④⑩ シープレングレー (FS No.26081)





- 部 品 表
1. 胴体 (左)
  2. 胴体 (右)
  3. ジェット (左)(外)
  4. ジェット (右)(外)
  5. 翼端タンク (左)
  6. 翼端タンク (右)
  7. サーチライト (右)
  8. サーチライト (左)
  9. ジェット (左)(内)
  10. ジェット (右)(内)
  11. パイロット
  12. シート
  13. カウリング
  14. エンジンナセル (右)
  15. エンジンナセル (左)
  16. カウリング
  17. 主翼上面 (左)
  18. 主翼下面 (左)
  19. 主翼下面 (右)
  20. 主翼上面 (右)
  21. エンジン架
  22. エンジンナセル (右)
  23. エンジンナセル (左)
  24. エンジン架
  25. エンジン後
  26. 水平尾翼下面 (左)
  27. 水平尾翼下面 (右)
  28. エンジン後
  29. サーチライト反射鏡
  30. スピナー (後)
  31. スピナー (前)
  32. 前車輪
  33. 主車輪 (外)
  34. 主車輪 (内)
  35. 機首床板
  36. バルクヘッド (後)
  37. バルクヘッド (前)
  38. 計器板
  39. 主翼上面部品
  40. 主翼上面部品
  41. 排気管 (A)(B)(C)
  42. カウルフラップ (C)
  43. カウルフラップ (C)
  44. カウルフラップ (A)
  45. カウルフラップ (B)
  46. カウルフラップ (B)
  47. カウルフラップ (A)
  48. プロペラ
  49. 主脚部品 (B)
  50. 主脚部品 (B)
  51. 機主部品
  52. オレオ
  53. アンテナ (B)(左右)
  54. アンテナ (A)(左右)
  55. ビトー管 (左)
  56. ビトー管 (右)
  57. 主脚部品 (A)(左)
  58. 主脚部品 (A)(右)
  59. 機銃
  60. 前脚支柱
  61. 前脚柱
  62. 主車輪扉 (右L)
  63. 主車輪扉 (R)
  64. 主車輪扉 (左L)
  65. 主車輪扉 (R)
  66. 前車輪扉 (左)
  67. 前車輪扉 (右)
  68. エルロン (左A)(右B)
  69. 前脚ケース
  70. コクピットフロアー
  71. 方向舵
  72. 後部砲座
  73. エンジン (前)
  74. 水平尾翼上面 (左)
  75. 水平尾翼上面 (右)
  76. エンジン (前)
  77. 風防 (B)(左)
  78. 風防 (C)(左)
  79. 風防 (C)(右)
  80. 風防 (D)(左)(右)
  81. 風防 (B)(右)
  82. 風防 (E)
  83. 操縦席風防 (右)
  84. 天測窓
  85. サーチライト前部品
  86. 機首風防
  87. 機銃カバー
  88. 風防 (A)(右)
  89. 風防 (A)(左)
  90. 操縦席風防 (左)

